みんなの「なんなーの？」を伝えるこども記者のための新聞（毎月1回発行）

信毎こども記者ニュース

なーのちゃん

発行／連絡先
こども記者クラブ（信濃毎日新聞地域活動部）　〒380-8546 長野市南県町657
TEL 026-236-3110　FAX 026-236-3193　電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp
no.55

2013年 師匠たちからのメッセージ

【2013年のこども記者クラブの活動】

1月12日	一茶に学ぼう！	信濃町
3月20日	内山紙編	飯山市
3月25日	消防署のお仕事拝見(こども記者のしごとリポート)	長野市
5月11日	地震のこと知って備えて	長野市
5月12日	★満蒙開拓の歴史編	阿智村
7月13日	いわさきちひろの世界	松川村
7月30日	FM長野のお仕事拝見(こども記者のしごとリポート)	松本市
8月10日	ロボットと宇宙	佐久市
9月16日	竹ってこんなにおもしろい！	長野市
10月13日	わくわく！恐竜の世界	飯田市
10月26日	★生産量日本一のエノキをもっと知ろう！	中野市

★は他の県の新聞にも載ったよ

信毎こども記者クラブは今年、取材教室やこどもスクールなどの活動を通して、たくさんの人に出会い、いろいろな経験をしました。2013年最終号の今回は、お世話になった師匠たちからのメッセージを、あらためてみんなに贈ります。

取材教室「一茶に学ぼう！」　俳人　マブソン青眼先生

一茶は、差別をたくさん受けたからこそ、差別が大きらいになった。彼にとって、江戸の人も田舎の人も、大人も子どもも、人間も動物も、みんな同じ生き物だった。たぶん、今の日本で最も必要なのは、こういう物の見方です。都会が田舎を都合よく使ったり、大人が子どもを犠牲にしたりしてはいけない。

取材教室「内山紙」編　伝統工芸士　阿部一義先生

紙すきは「気をすく」といわれて、心の状態がそのまま反映される作業です。１枚の紙の中で厚さが一定になるようにし、さらに、すべての紙が同じにできなければいけないので、とてもせんさいな感覚が求められます。ですので、二日酔いだとだめですね（笑）。

取材教室「満蒙開拓の歴史」編　「満蒙開拓平和記念館」専務理事　寺沢秀文先生

戦争中に「満州」（現在の中国東北部）で起きたような悲しいことが二度とあってはいけない。そのために勉強しようと、阿智村につくられたのが「満蒙開拓平和記念館」です。将来の日本を担うみなさんも平和の時代が続くようにがんばってほしいと思います。

こどもスクール「ロボットと宇宙」　ロボットクリエーター　高橋智隆先生

いろいろなことに感動した経験を大切にしてください。それが勉強しようとしたり、新しいことを調べたり、自分でものを作ったりする原動力になります。いろいろと興味があることを調べていくと、それが次のやりたいことにつながっていくと思います。

取材教室「いわさきちひろの世界」　安曇野ちひろ美術館学芸主任　宍倉恵美子先生

いわさきちひろは、子どもの絵をたくさん描きました。自分にも息子がいる、一人の母親だったちひろが描く子どもたちのしぐさや表情はとてもかわいらしいものばかり。ちひろは子どもが大好きだったから、その目や手の動きをよーく見て描いていました。みなさんも、絵を描くときは好きなものを描くのをおすすめします。好きだとよく見つめて描くから、上手に描けると思いますよ。

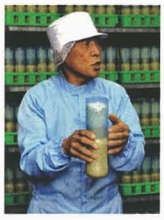
取材教室「竹ってこんなにおもしろい！」　竹工作人　小出九六生先生

ものごころつくころから、近くに竹があった。竹の持つ美しさ、優しさにみせられて、竹をいかに活かすか考え続けてきた。竹の仕事をしていると、竹が日本の文化に大きくかかわっていることを感じる。華道や茶道、能楽、そして子どものおもちゃや生活道具にいたるまで…。「今どき竹なんて」という人もいるだろう。しかし、竹は日本人の中に脈々と受け継がれてきていることを感じている。今の子どもたちに、竹のことを見直してもらえたらうれしい。

こどもスクール「わくわく！恐竜の世界」　国立科学博物館研究主幹　真鍋真先生

現在使われている恐竜の学名は800種から1000種類くらいだと言われています。多そうに感じますが、現在、地球には鳥類だけで約1万種、哺乳類が約6000種いることを考えると、1億6000万年以上も繁栄した恐竜は、数十万種以上はいたはずです。近年、毎年50種以上の恐竜の新種が発表されています。平均すると1週間にひとつは、世界のどこかで新種の恐竜が生まれていることになります。みんなの中から世界を代表するような恐竜学者が出てきて、恐竜の謎や不思議をひとつでも多く解決してほしいです。

取材教室「生産量日本一のエノキをもっと知ろう！」　エノキ生産「MT産業」社長　長島政弘先生



私はみなさんにもっとキノコのことを知ってもらって、好きになってもらいたいと思い、これまでいろいろなところで宣伝したり、新聞やテレビの取材を受けたりしてきました。１０月の取材教室では、みんな初めてエノキを作っているところを見たと思います。生産現場を見て、興味を持ってもらえたならとてもうれしい。そして、私たちが衛生面などに気を配ってこだわって作っているキノコを、これからもたくさん食べてもらえたらもっとうれしいです。

こども記者クラブのメンバーを募集しています。メンバーになると、特製記者バッジと名刺をプレゼント。「こども記者クラブ希望」と書いて、信毎地域活動部までどしどし応募してくださいね。